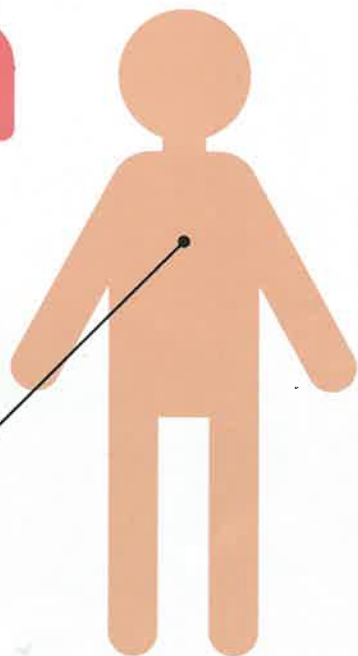


# 臓器のはなし



## 今月は 乳がん

### オプション検査で 早期発見を

40歳代から増加  
まれに男性も発症

乳がんは、母乳を作り出す小葉、母乳を乳頭まで届ける乳管から発生する悪性腫瘍です。女性が罹患するがんのなかで最も多く、特に40歳代から急激に発症が増加します。男性に発生することもあります。約1000人に1人と稀で、まれに乳がん

全体の1%です。私がこれまで担当した患者さんの中でも1名だったと思います。乳輪の後ろの部分にしこり(腫瘍)ができることが多く、女性の乳がんと同じように、初期は痛みを伴わないケースが多いそうです。

しこりの発見を難しくするのが、男性の「女性化乳房」。胸が女性の乳房のように膨らむ症状です。血圧上昇に関連するアルドステロンというホルモンの働きを抑える利尿剤や、心臓の薬、胃潰瘍・胃炎の薬など、一部の薬剤の副作用が原因で、男性もおっぱいが少し大きくなるのです。

その際、乳房が張って硬くなり、一般的な女性化乳房なのか、乳がんのしこりなのか、区別しづらい状況に。医師に相談するのも抵抗があると思いますが、少しでも気になったら医療機関で受診してください。

### 触診だけでは 早期発見が難しい

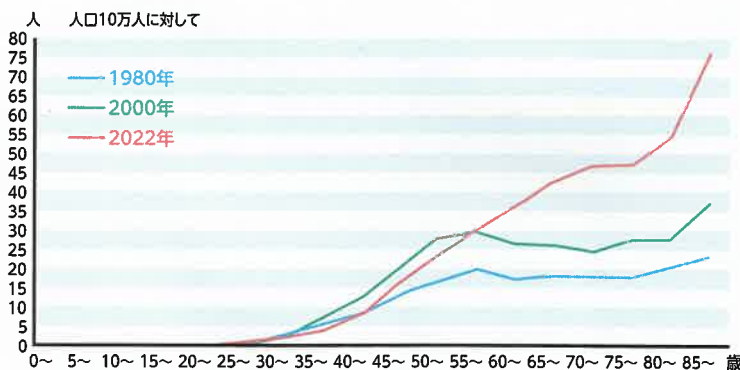
乳がん検査の「マンモグラフィー」は、乳房をX線で撮影することで、乳腺(小葉、乳管、乳頭の総称)組織内の異常を検出する方法。X線撮影により、しこり、石灰化(微小なカルシ

ウムの乳腺への沈着)などを映し出し、初期兆候を発見できます。

しかし、国際的にはマンモグラフィーによる乳がん検診の有益性が疑問視されている風潮も。不要な手術や放射線療法、化学療法などの過剰診断を招く原因と指摘され、禁止にしている国もあるそうです。

一方、日本では「ピンクリボン(乳がん検診)」が浸透し、マンモグラフィーによる乳がん検診を推奨。日本は医療機関が充実し、医療従事者のマンパワーもあります。健診に関しては、外国よりかなり良い体制が築けているのではないのでしょうか。

女性なら乳房やわきの下を触って、しこりがないか自己検診できますが、1cm以下の場合、気づくのは難しいでしょう。健診・人間ドックの担当医師が女性である医療機関も増えて触診も受けやすくなっています。ただ近年、触診の有効性が疑問視されていることから廃止する医療機関も少なくありません。やはりオプションとして「マンモグラフィー」やCT(コンピュータ断層撮影法)検査など、より精度の高い検査を受けることをおすすめします。



年齢別乳がん(女性)死亡率推移  
(1980年、2000年、2022年)

資料：公益財団法人 がん研究振興財団「がんの統計 2024」

監修

浅海 直  
あさうみ すなお  
(医療法人社団  
平成医会 産業医)



1993年千葉大学医学部卒。2007年12月まで松戸市立福祉医療センター東松戸病院(内科副部長)、2008年1月より板橋区役所前診療所に勤務。専門分野は糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患等の代謝・内分泌疾患および老年医学。